

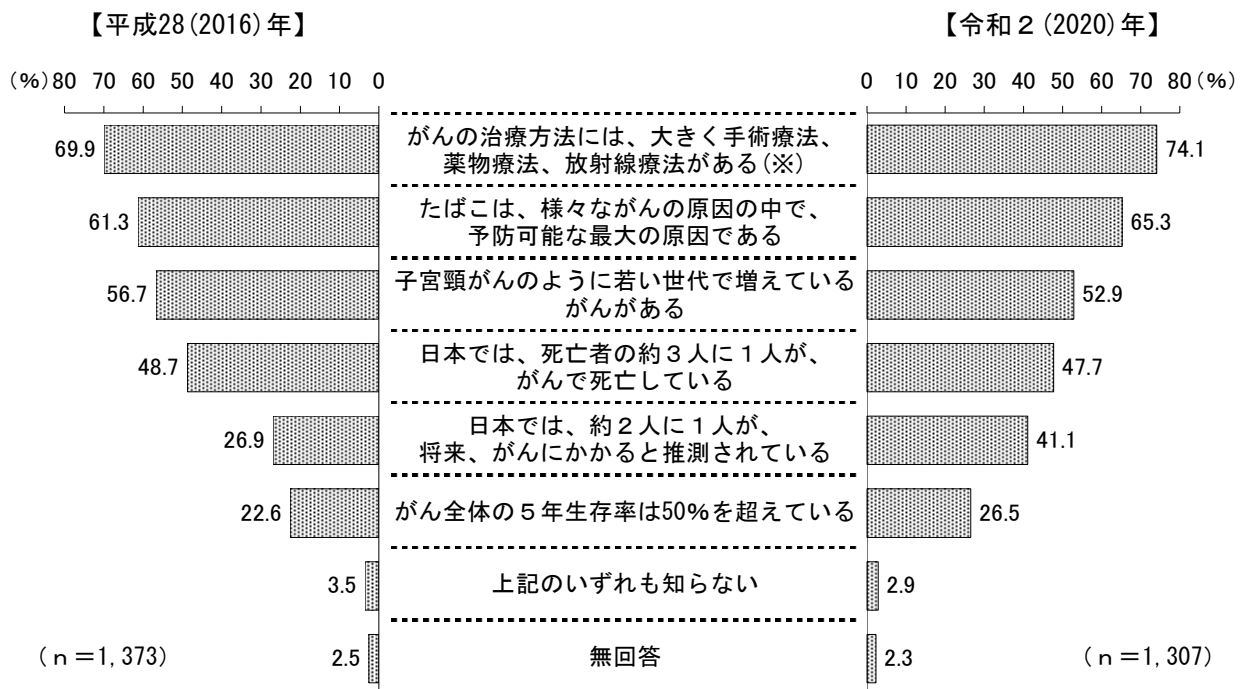
## 10 とちぎのがん対策等について

### (1) がんについて知っていること

問25 がんについてあなたが知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1,307]

1	日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している	47.7%
2	日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかると推測されている	41.1
3	子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある	52.9
4	がんの治療方法には、大きく手術療法、薬物療法、放射線療法がある	74.1
5	がん全体の5年生存率は50%を超えている	26.5
6	たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である	65.3
7	1～6のいずれも知らない	2.9
	(無回答)	2.3

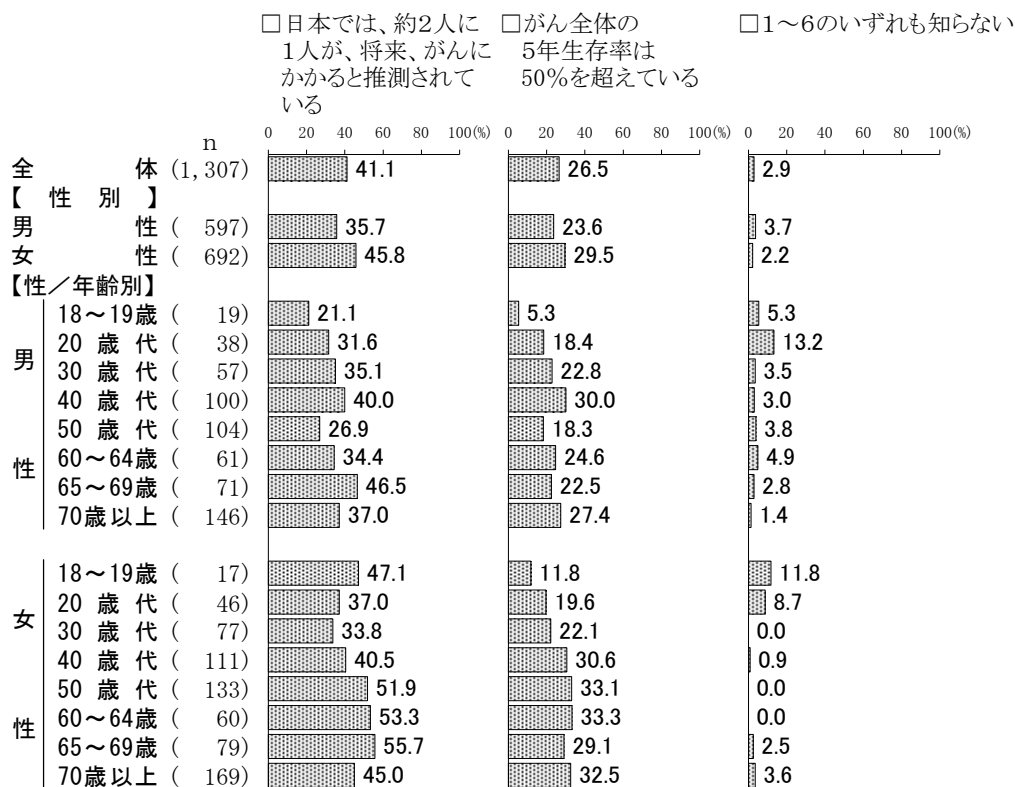
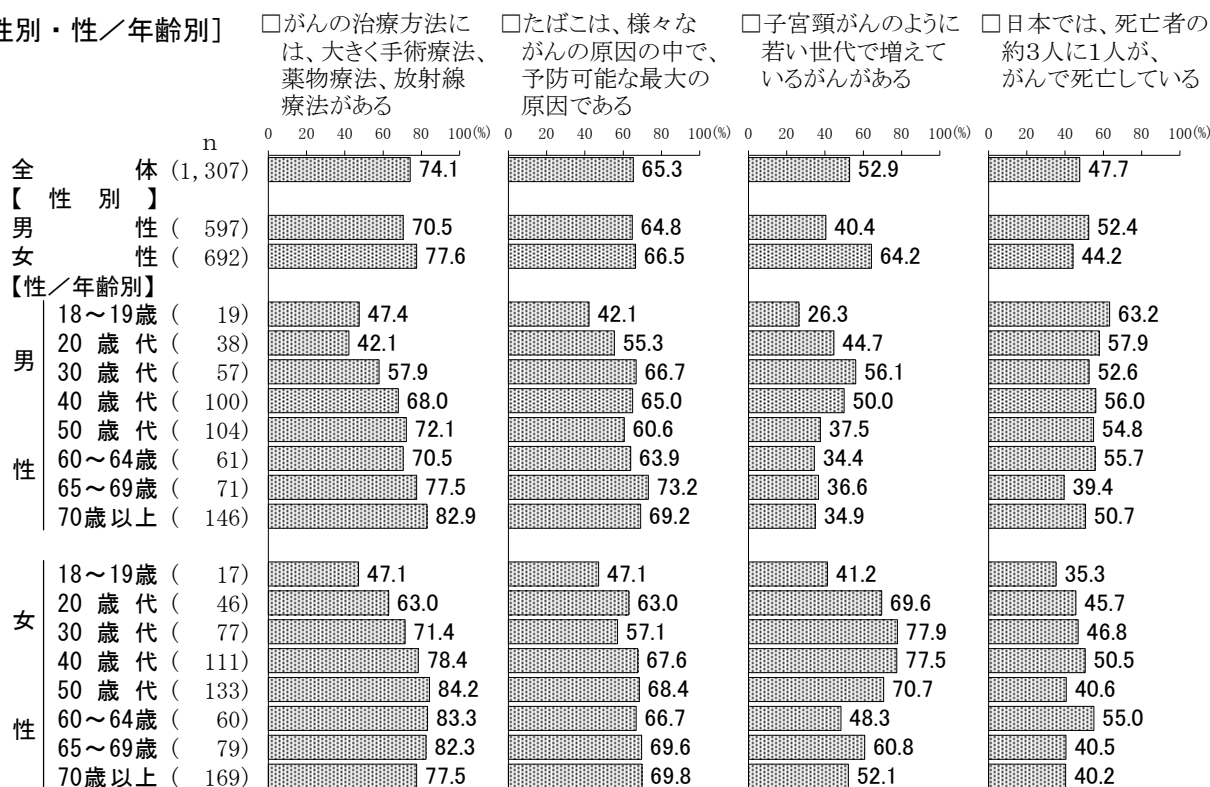


(※)「がんの治療方法には、大きく手術療法、薬物療法、放射線療法がある」は、平成28(2016)年調査では「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」としていた。

全体で見ると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、薬物療法、放射線療法がある」(74.1%)が7割半ばで最も高く、次いで「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である」(65.3%)、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」(52.9%)、「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」(47.7%)、「日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかる」と推測されている」(41.1%)の順となっている。

平成28(2016)年の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、「日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかる」と推測されている」が14.2ポイント増加している。

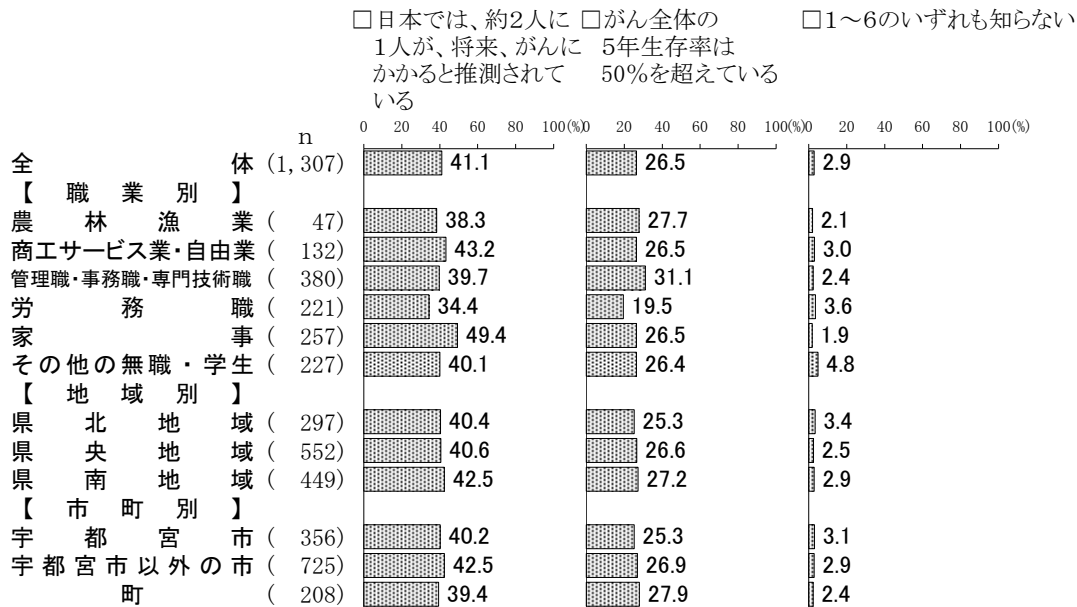
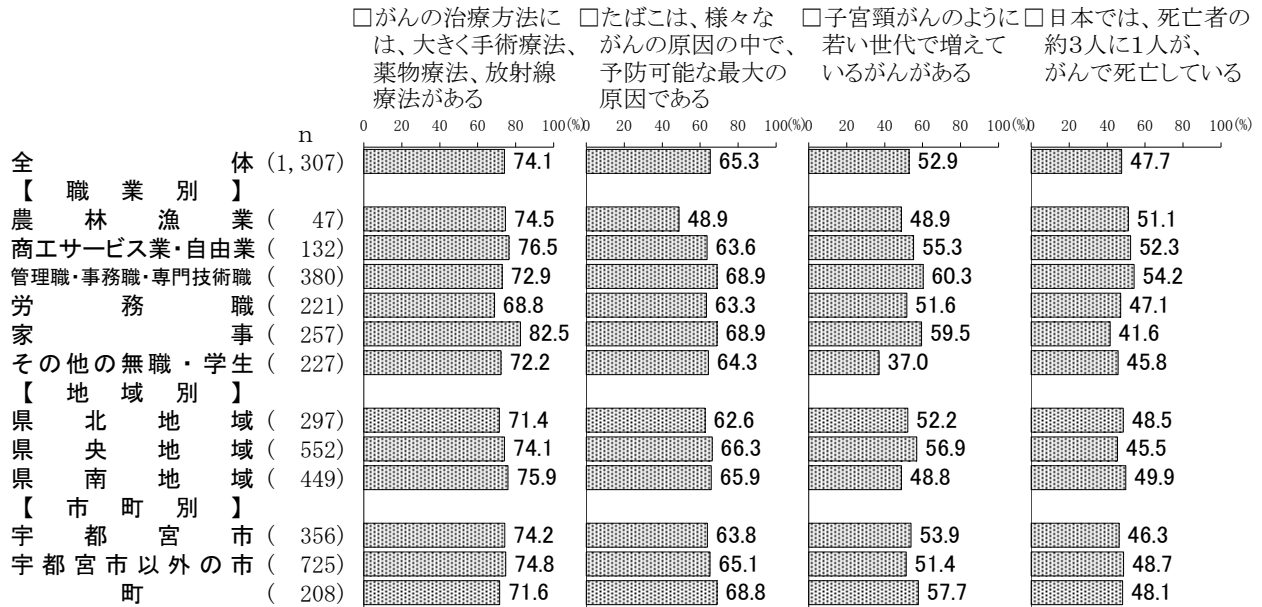
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈女性〉(64.2%)が〈男性〉(40.4%)より23.8ポイント高くなっている。「日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかると推測されている」では〈女性〉(45.8%)が〈男性〉(35.7%)より10.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈女性50歳代〉が84.2%と高くなっている。「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈女性30歳代〉が77.9%、〈女性40歳代〉が77.5%、〈女性50歳代〉が70.7%、〈女性20歳代〉が69.6%と高くなっている。「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」では〈男性20歳代〉が57.9%と高くなっている。「日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかると推測されている」では〈女性65～69歳〉が55.7%、〈女性60～64歳〉が53.3%、〈女性50歳代〉が51.9%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「がんの治療方法には、大きく手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈家事〉が82.5%と高くなっている。「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が60.3%、〈家事〉が59.5%と高くなっている。「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が54.2%と高くなっている。「日本では、約2人に1人が、将来、がんにかかるかと推測されている」では〈家事〉が49.4%と高くなっている。

地域別でみると、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんがある」では〈県央地域〉が56.9%と高くなっている。

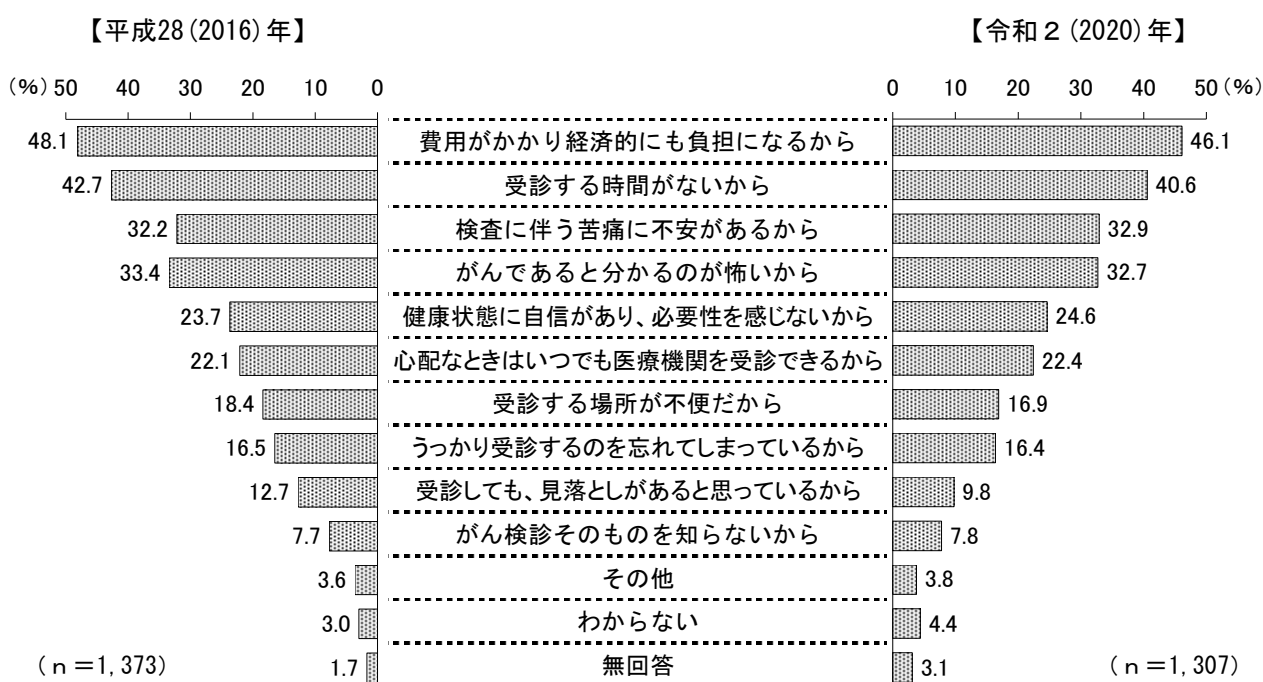
市町別でみると、「たばこは、様々ながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である」では〈町〉が68.8%と高くなっている。

## (2) がん検診を受診しない人が多い理由

問26 がん検診の受診率は、40～50%程度となっていますが、欧米諸国と比較すると依然として低い状況です。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 307]

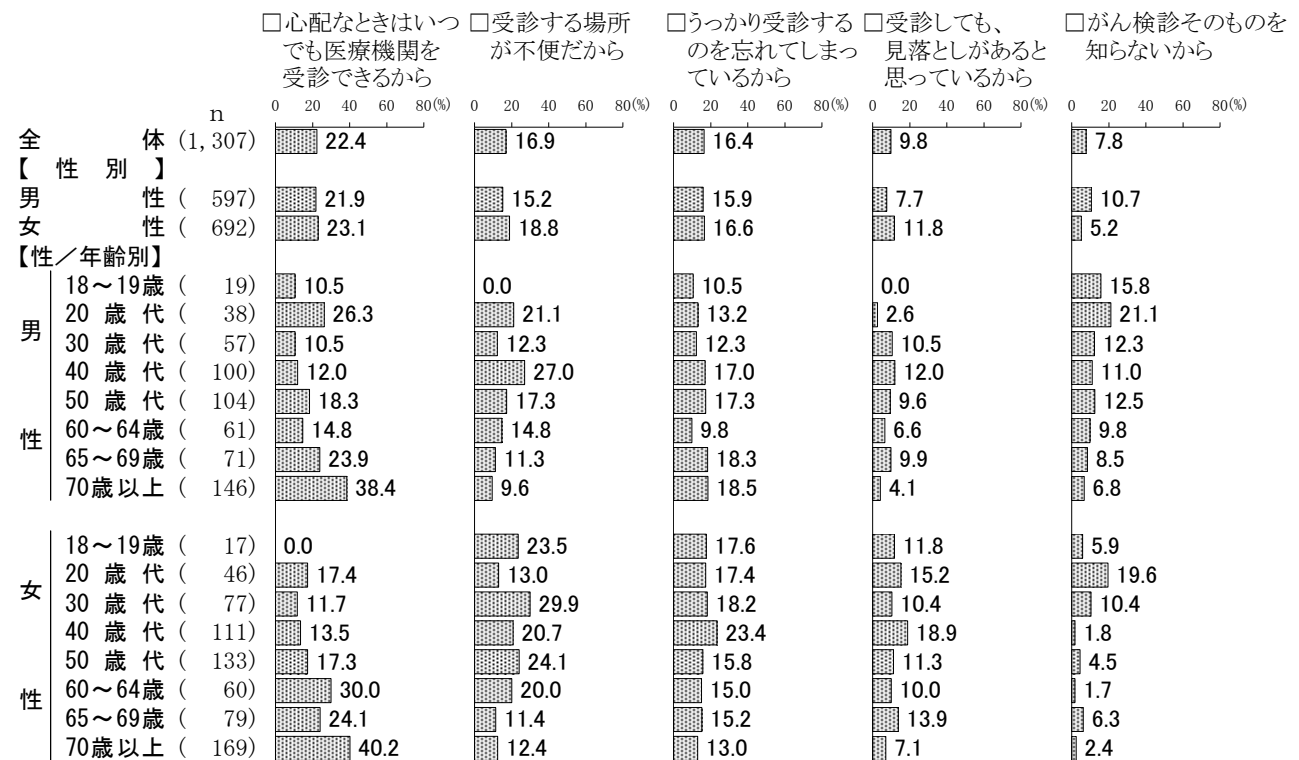
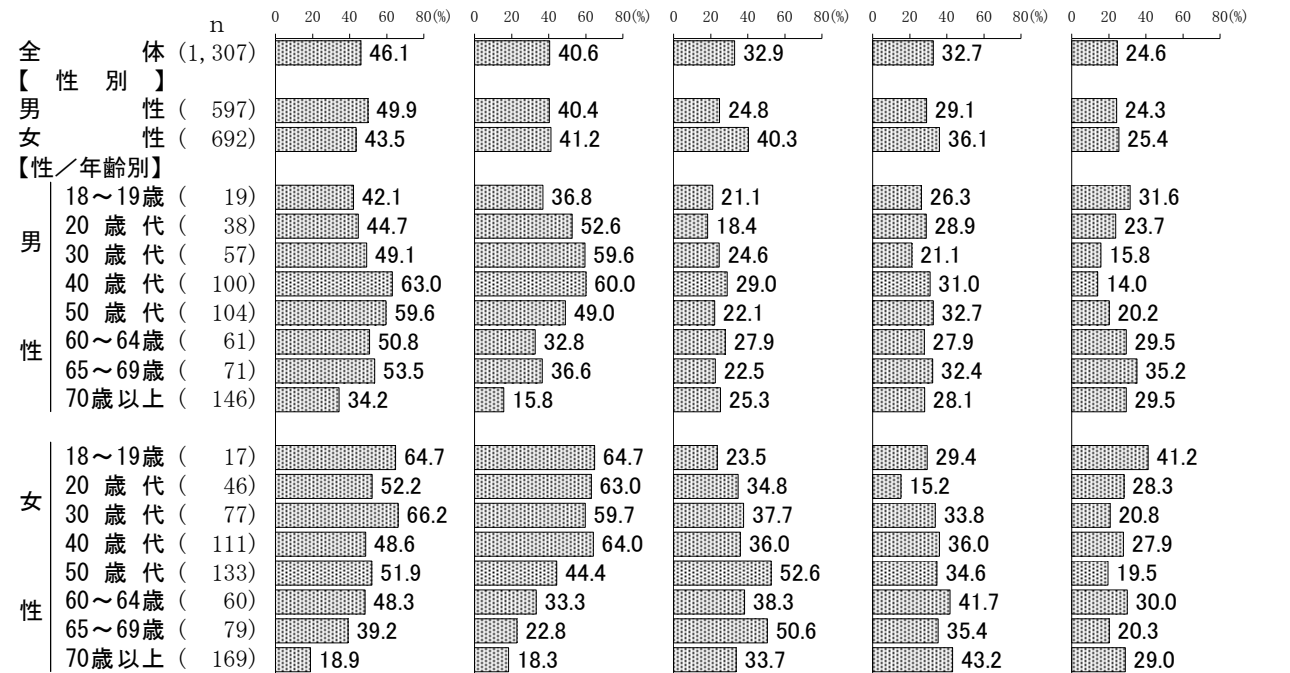
1	がん検診そのものを知らないから	7.8%
2	うっかり受診するのを忘れてしまっているから	16.4
3	受診する時間がないから	40.6
4	受診する場所が不便だから	16.9
5	費用がかかり経済的にも負担になるから	46.1
6	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	24.6
7	検査に伴う苦痛に不安があるから	32.9
8	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	22.4
9	がんであると分かるのが怖いから	32.7
10	受診しても、見落としがあると思っているから	9.8
11	その他	3.8
12	わからない	4.4
	(無回答)	3.1



全体でみると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」(46.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「受診する時間がないから」(40.6%)、「検査に伴う苦痛に不安があるから」(32.9%)、「がんであると分かるのが怖いから」(32.7%)、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」(24.6%)の順となっている。

平成28(2016)年の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

【性別・性／年齢別】  
 (上位10項目)

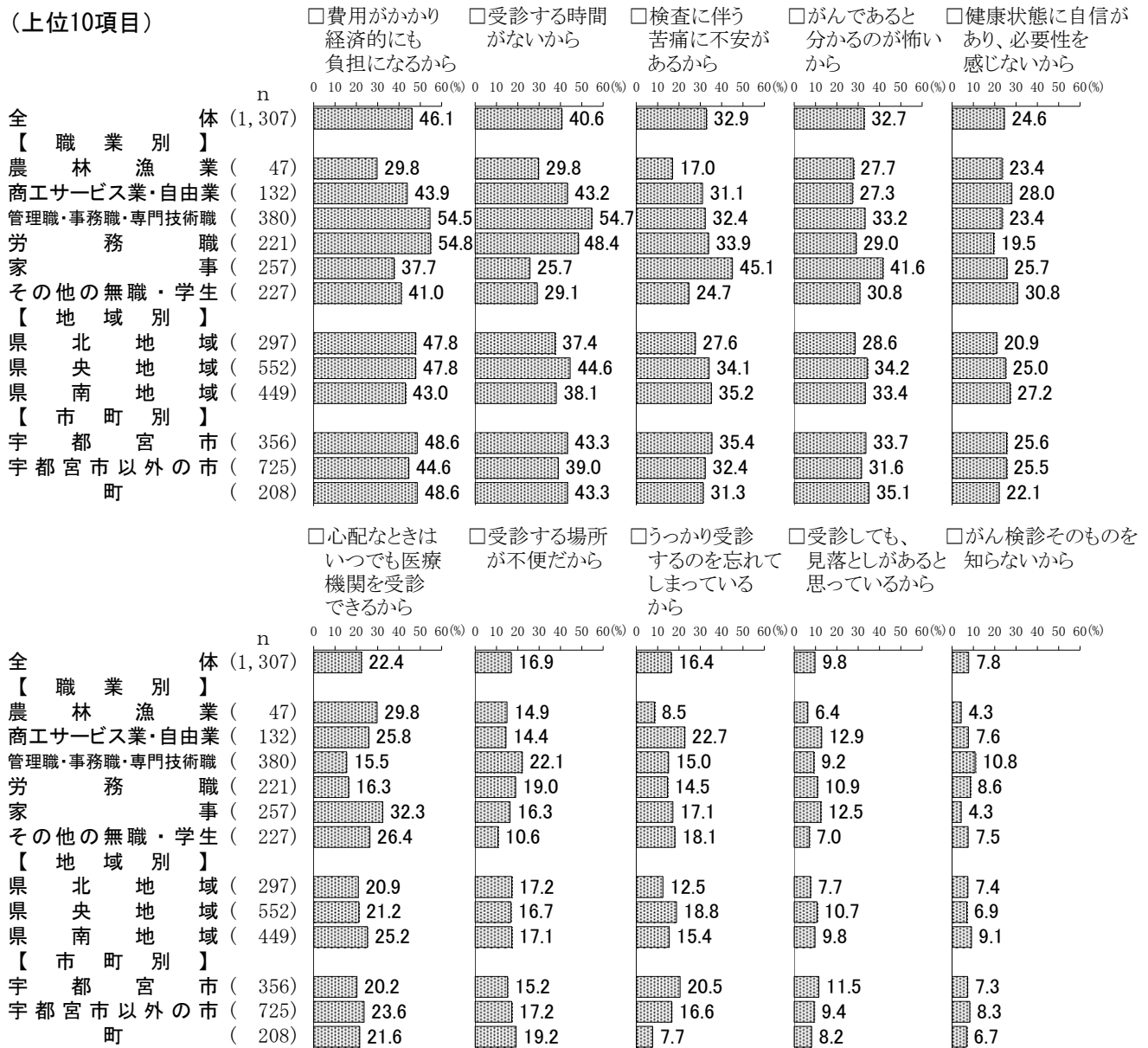


性別で見ると、「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性〉(40.3%)が〈男性〉(24.8%)より15.5ポイント高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性〉(36.1%)が〈男性〉(29.1%)より7.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」では〈女性30歳代〉が66.2%、〈男性40歳代〉が63.0%、〈男性50歳代〉が59.6%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈女性40歳代〉が64.0%、〈女性20歳代〉が63.0%、〈男性40歳代〉が60.0%、〈女性30歳代〉が59.7%、〈男性30歳代〉が59.6%と高くなっている。「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性50歳代〉が52.6%、〈女性65～69歳〉が50.6%と高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性70歳以上〉が43.2%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]

(上位10項目)



職業別でみると、「費用がかかり経済的にも負担になるから」では〈労務職〉が54.8%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が54.5%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が54.7%と高くなっている。「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈家事〉が45.1%と高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈家事〉が41.6%と高くなっている。

地域別でみると、「受診する時間がないから」では〈県央地域〉が44.6%と高くなっている。

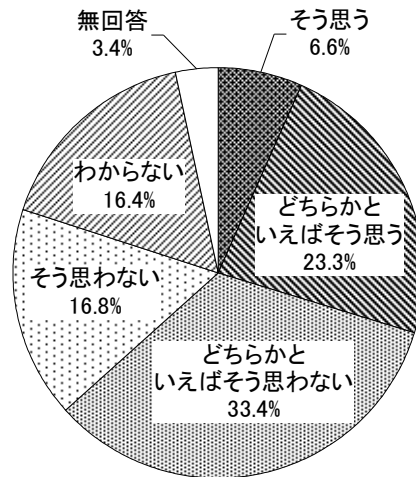
市町別でみると、「うっかり受診するのを忘れてしまっているから」では〈宇都宮市〉が20.5%と高くなっている。

(3) がんの治療・検査のために通院しながら働き続ける社会の環境

問27 現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

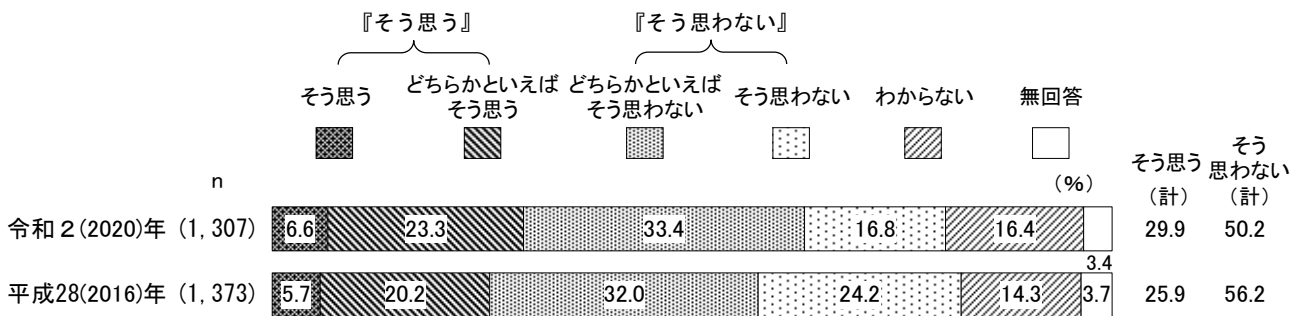
[n=1,307]

1	そう思う	6.6%	4	そう思わない	16.8%
2	どちらかといえばそう思う	23.3	5	わからない	16.4
3	どちらかといえばそう思わない	33.4	(無回答)		3.4



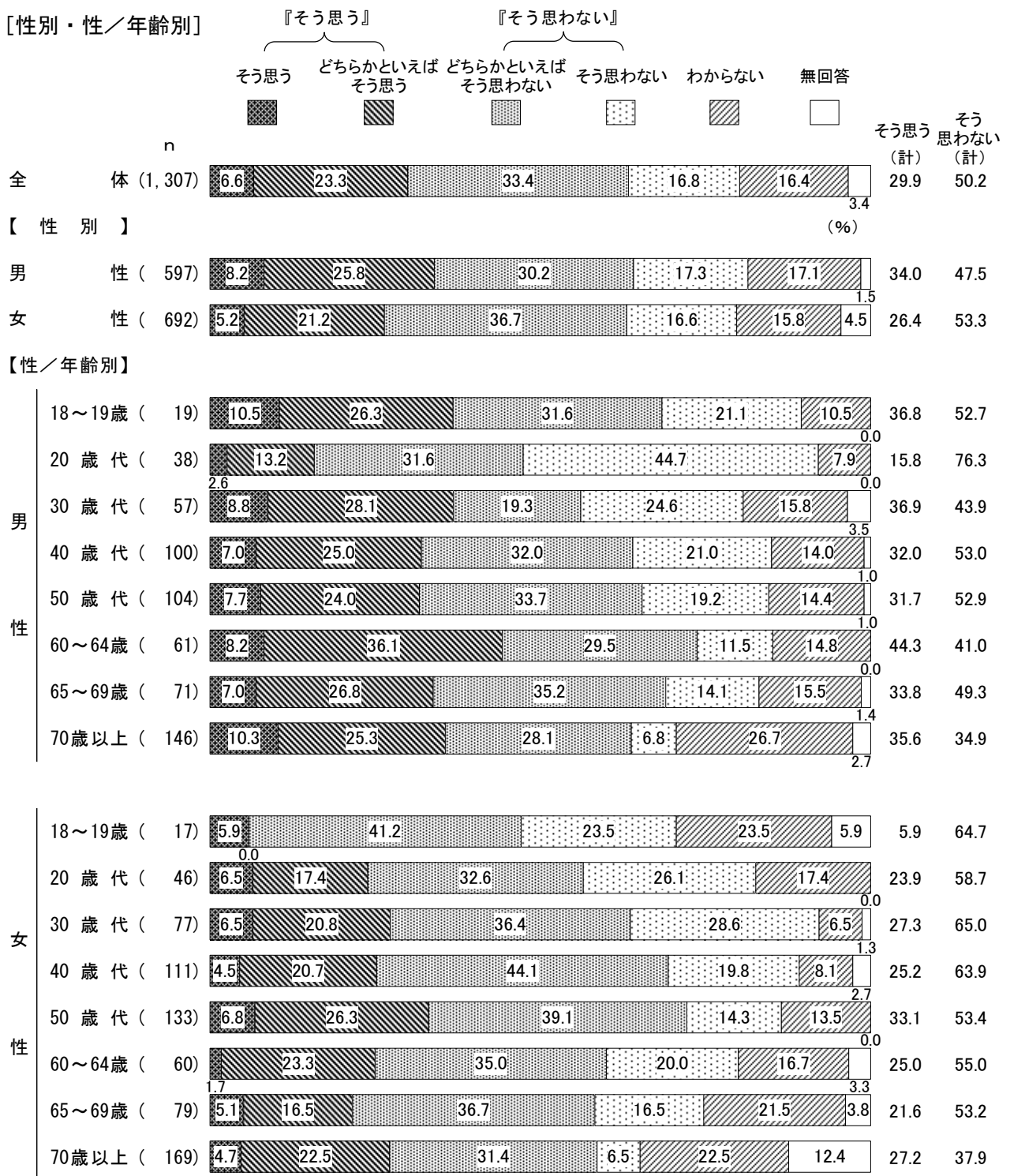
(n=1,307)

全体でみると、「そう思う」(6.6%)と「どちらかといえばそう思う」(23.3%)の2つを合わせた『そう思う』(29.9%)が3割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(33.4%)と「そう思わない」(16.8%)の2つを合わせた『そう思わない』(50.2%)が5割となっている。



平成28(2016)年の調査結果と比較すると、『そう思う』が4.0ポイント増加している。一方、『そう思わない』が6.0ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

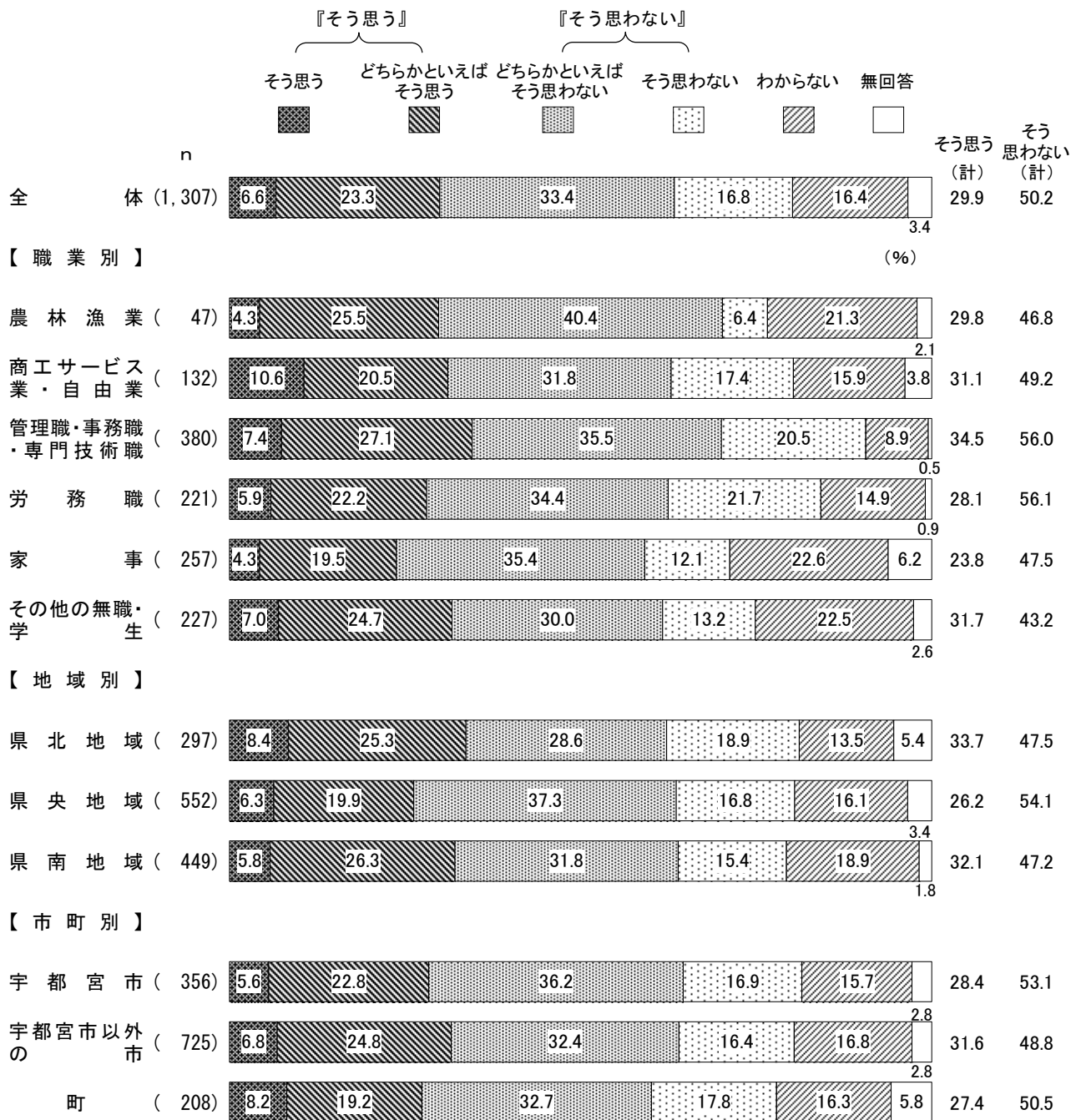


性別でみると、『そう思う』では〈男性〉(34.0%)が〈女性〉(26.4%)より7.6ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』では〈女性〉(53.3%)が〈男性〉(47.5%)より5.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『そう思う』では〈男性60～64歳〉が44.3%と高くなっている。一方、『そう思わない』では〈男性20歳代〉が76.3%、〈女性30歳代〉が65.0%、〈女性40歳代〉が63.9%と高くなっている。



[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『そう思う』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が34.5%と高くなっている。一方、『そう思わない』では〈労務職〉が56.1%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が56.0%と高くなっている。

地域別でみると、『そう思わない』では〈県央地域〉が54.1%と高くなっている。

市町別でみると、『そう思う』では〈宇都宮市以外の市〉が31.6%と高くなっている。

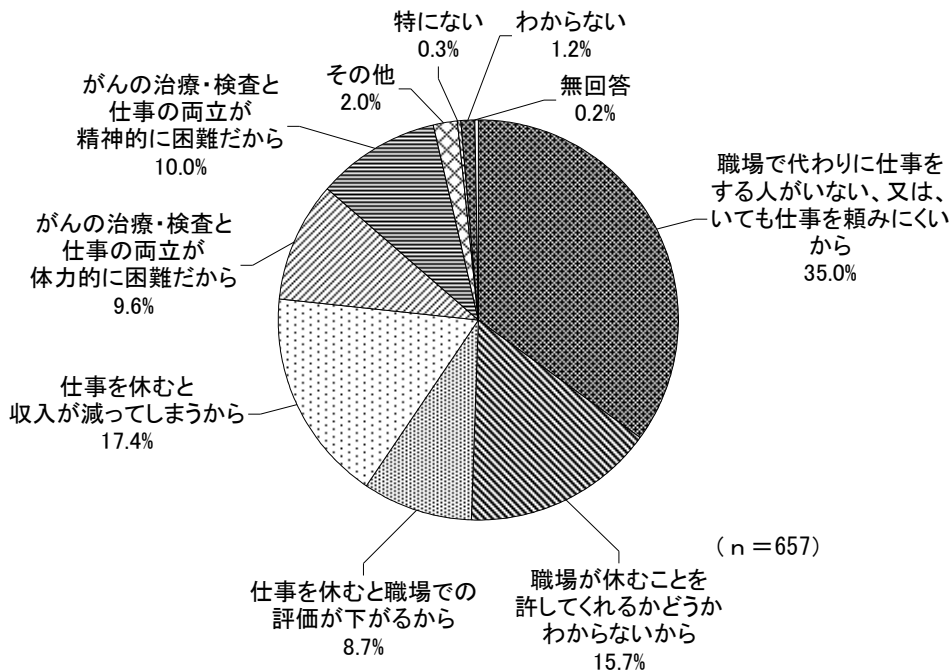
(3-1) がんの治療・検査のために通院しながら働き続けるための妨げになること

(問27で選択肢「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」を選んだ方のみお答えください)

問27-1 がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思えますか。次の中から1つ選んでください。

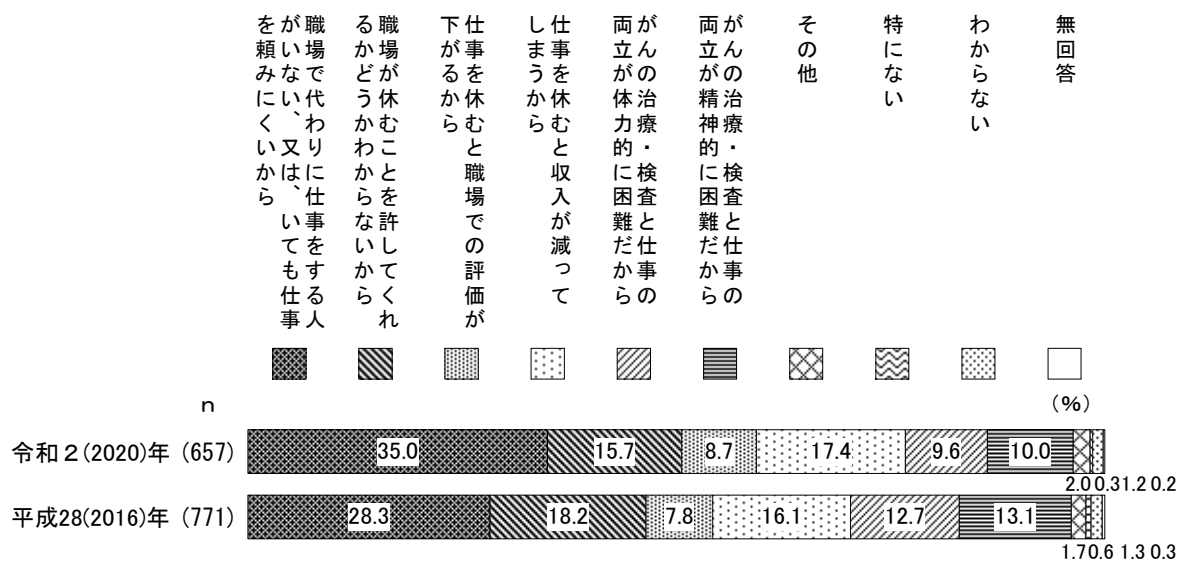
[n=657]

1	職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから	35.0%
2	職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから	15.7
3	仕事を休むと職場での評価が下がるから	8.7
4	仕事を休むと収入が減ってしまうから	17.4
5	がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから	9.6
6	がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから	10.0
7	その他	2.0
8	特にない	0.3
9	わからない	1.2
	(無回答)	0.2



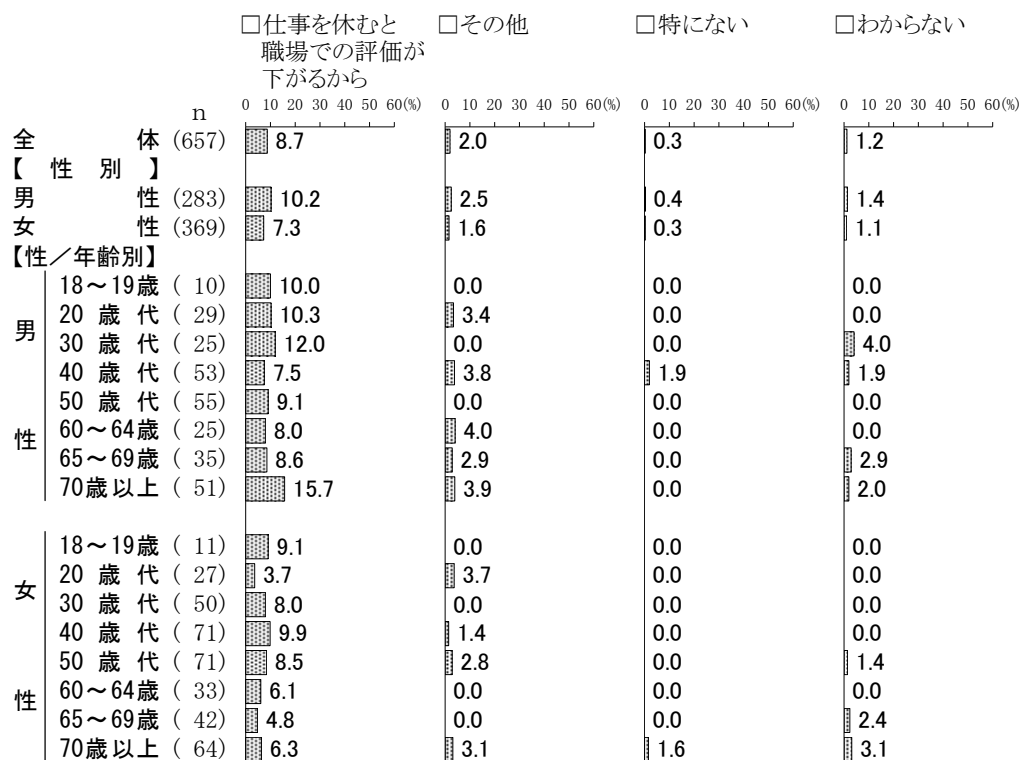
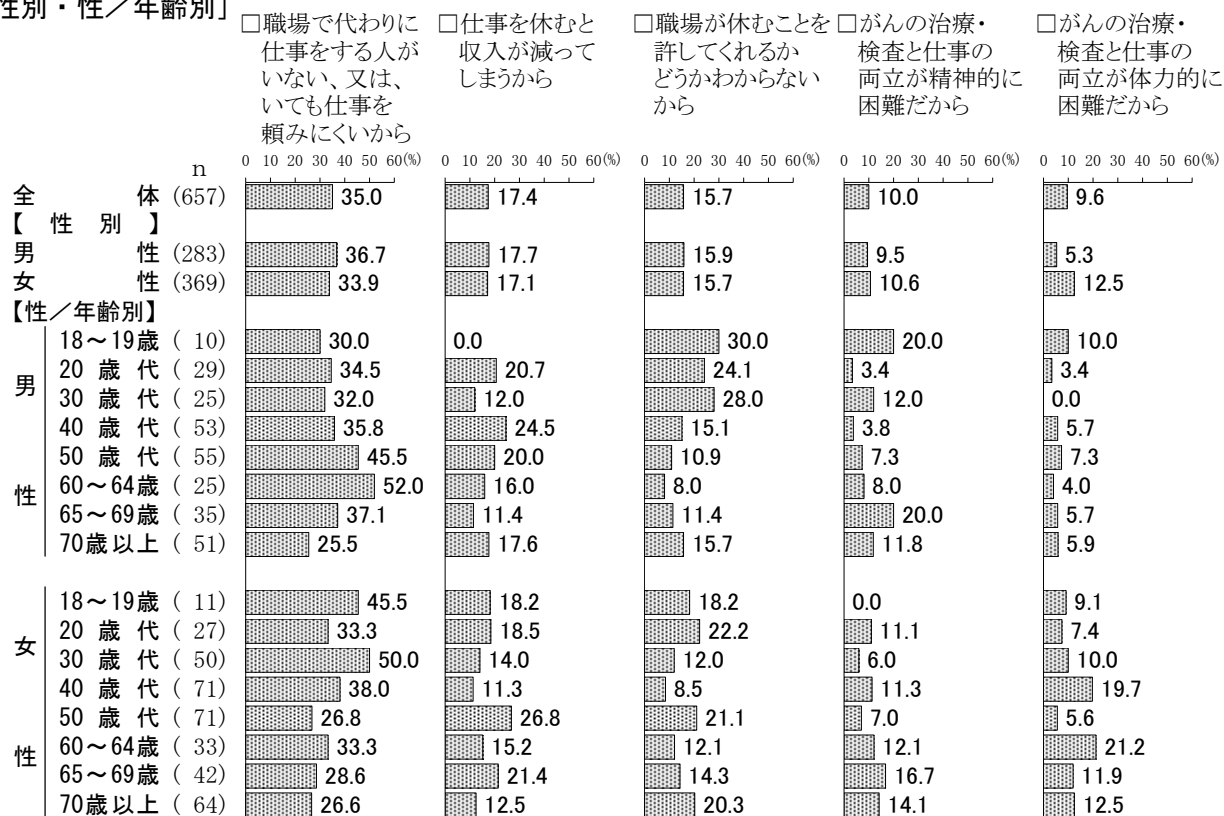
全体で見ると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」(35.0%)が3割半ばで最も高く、次いで「仕事を休むと収入が減ってしまうから」(17.4%)、「職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから」(15.7%)、「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」(10.0%)の順となっている。

[過去の調査結果]



平成28（2016）年の調査結果と比較すると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」が6.7ポイント増加している。一方、「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」と「がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから」がともに3.1ポイント減少している。

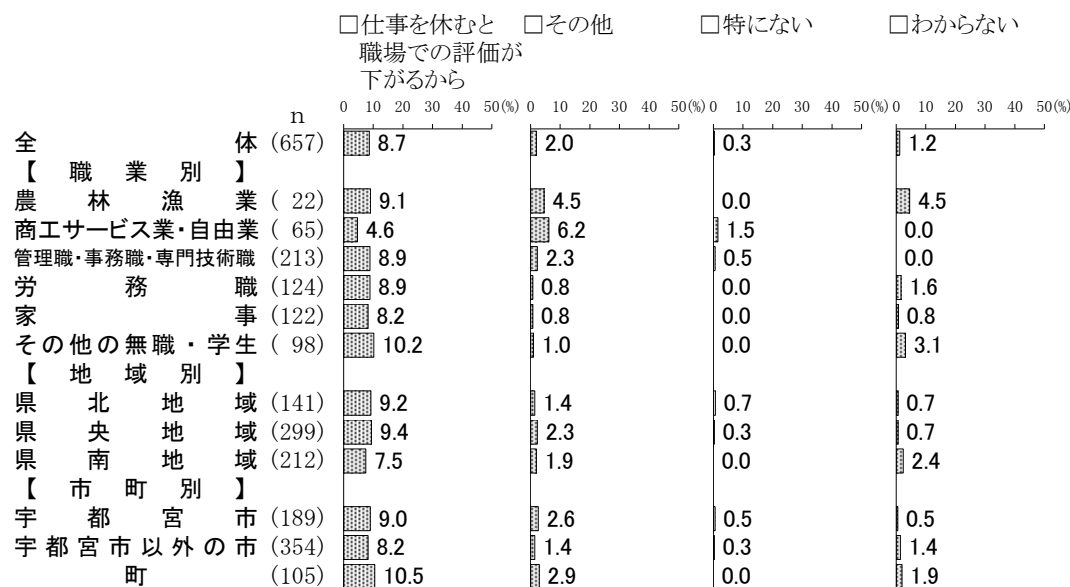
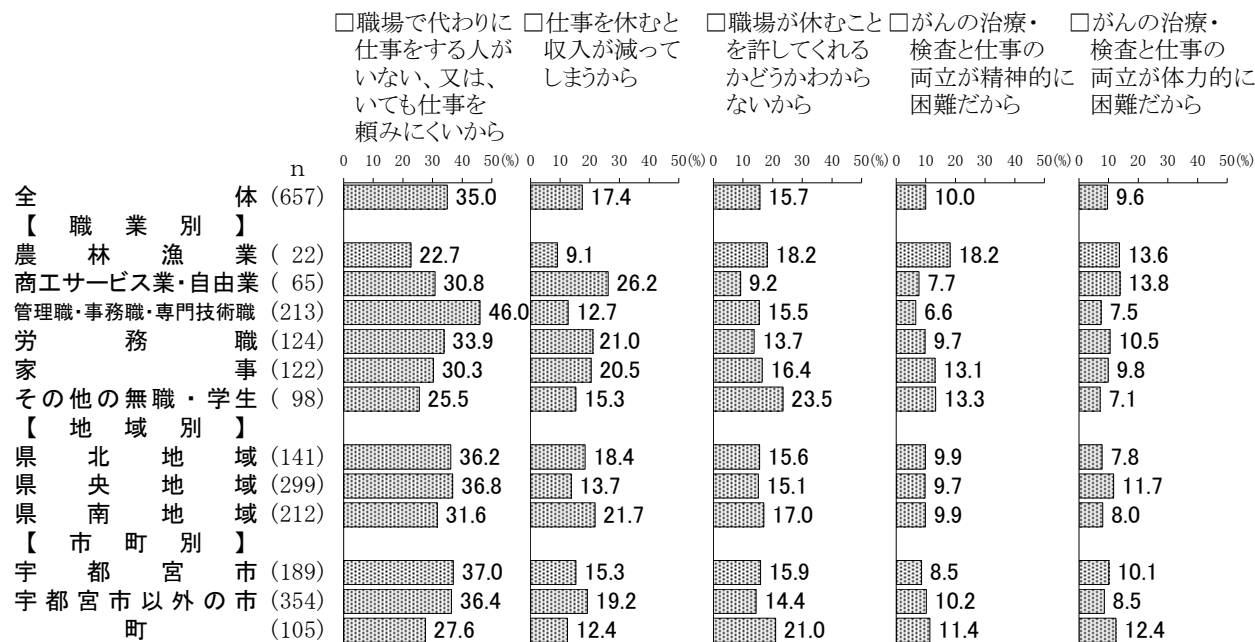
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」では〈女性〉(12.5%)が〈男性〉(5.3%)より7.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」では〈女性30歳代〉が50.0%と高くなっている。「仕事を休むと収入が減ってしまうから」では〈女性50歳代〉が26.8%と高くなっている。「がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから」では〈女性60～64歳〉が21.2%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「職場で代わりに仕事をする人がいない、又は、いても仕事を頼みにくいから」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が46.0%と高くなっている。「職場が休むことを許してくれるかどうか分からないから」では〈その他の無職・学生〉が23.5%と高くなっている。

地域別で見ると、「仕事を休むと収入が減ってしまうから」では〈県南地域〉が21.7%と高くなっている。

市町別で見ると、「職場が休むことを許してくれるかどうか分からないから」では〈町〉が21.0%と高くなっている。